

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月26日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520099

研究課題名（和文） 間メディア論としての写真論

研究課題名（英文） Theory of Photography as Theory of Intermedia

研究代表者 前川 修 (MAEKAWA OSAMU)

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：20300254

研究成果の概要（和文）：

写真を間メディアとして議論する論点を提起し、19世紀から20世紀末にいたるまでのいくつかの現象を検討した。そこには、カルト・ド・ヴィジット、芸術写真、アマチュア写真、デジタル写真という写真の多様な現象形態が含まれる。こうした各々の写真事象について本研究は、資料調査をするとともに、美学芸術学的な観点から比較検討を行い、以上のような方法を通じて、写真が帯びる多様な間メディア的特性を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This project raised some points of view to discuss the photography as a inter-media, and investigated a number of phenomena from the 19th century to the end of the 20th century. These phenomena include a variety of photography such as carte de visit, art photography, amateur photography and digital photography. This project investigated the materials of these photographs and conducted a comparative study of them from the aesthetic view point. Through this way, I made clear various inter-medialities of photography.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2011年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2012年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 総計 | 2,900,000 | 870,000 | 3,770,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：写真、メディア論、間メディア性

1. 研究開始当初の背景

従来の拡散した写真論／写真研究における
写真の間メディア的特性についての諸成果

を統一的な視点で議論する基盤が依然として不十分であるという背景。

2. 研究の目的

写真というメディアがもつ間メディア的特質を、主に19世紀待つかから20世紀後半の各メディア（映画以前から映画以後まで）と比較し、いくつかの事例を検討することで写真がその発明以来帯びてきた間メディア的特質を明らかにすること。

3. 研究の方法

写真と初期映画の身体論的比較考察、テレビと写真の現象学的比較考察、美術における写真のメディア論的考察、ビデオとデジタルの間メディアとしての写真についての考察、この4つの項目に関して、資料調査をするとともに、画像の生産／受容論からの検討、美学芸術学的な検討を行うという方法を採用した。

4. 研究成果

時代順、観点別に成果を要約する。

(1) 19世紀半ばから20世紀転換期における写真の間メディア的考察および身体論的考察：19-20世紀の転換期のアマチュア写真の受容形態について資料収集を行い、その他メディアと共通したメディアの受容のありかたについて比較検討を行った(2010年度)。また、そのうえで19世紀後半から欧米で浸透した名刺版写真が帯びる、記号論的意味を明らかにし、さらにその生産、流通、受容がもたらす身体的同一性の変容について議論を行った。写真の1ジャンルであったカルト・ド・ヴィジットが、その道具立てから撮

影方法、交換や流通のあり方やアルバムへの編纂に至るまで、表層的記号の、断片を用いて市民たちに自己の輪郭を与えるとともにそれを再編集可能で流動的な記号の集積体ともしていたメディアであったことを明らかにした(研究論文①、2012年度)。

(2) 芸術写真論における間メディア論的考察：シャーカフスキー等、モダニズム側での芸術的写真論の再検討を行い、その理論の諸要素を間メディア的次元へ転用する必要性を明らかにした。同時に、現在、芸術的写真の一例として議論の俎上にのせられることの多い杉本の写真を素材に、アナログ／デジタルという概念で語られる現在の芸術的写真論の問題点を析出した(論文⑤、論文⑥、2010年度)。

(3) 戦後期の写真についてのメディア論的考察：20世紀半ばにおけるアマチュア写真論について、ブルデューを代表する社会学的写真論の再検討を行い、その理論的難点を抽出し、アラン・セクーラ等の写真論からのさらなる展開の可能性を提示した(論文③、2011年度)。

(4) メディア論における写真論の考察：メディア芸術祭関連の国際シンポジウム(「メディア芸術の地域性と普遍性」)において「メディア／芸術としての写真」という発表(研究発表②、2011年度)を行い、現在間メディア的位置にある写真が、昨今のメディア論から見てどのような位置に置かれているかも美学的・芸術的に考察をした。モノヴィッチやクラウス、ベルティンクやマーク・ハンセンらの議論を比較検討しながら、ブリコラージュ的实践、戦術的实践の概念の重要性を指摘した。

他方で、戦後の諸メディア論において言及される、写真映像に見られる身体論的次元を、写真と他のメディアを比較して考察を行なった。一方で古典的な精神分析的理論に抗する認知理論的な映像研究、とくに、しばしば批判されることの多いノエル・キャロルなどの映像理論を検討し、他方で同様に精神分析の批判から出発するドゥルージアンによる映像理論（たとえばステーヴン・シャヴィロ）の理論を検討した。また、その検討作業の一環として、漫画における恐怖の表象をフレーム内フレームというテキスト構造／受容構造に基づいて議論した（論文②、2011年度）。

（5）TVと写真の現象学的、考古学的考察：写真が1950年代から60年代にかけてTVメディアとの結びつきのなかで帯びるにいたった特性（その時間および空間性、受容の様態）を、TVメディア論（メアリー・アン＝ドーン、サミュエル・ウェーバーら）とつきあわせることで明らかにし、こうした結び付きが80年代以降の映画表象においていかなる変容を遂げたかを考察した。とくに下記のシンポジウムで、80年代以降のタイムマシン映画史における、映画／ビデオ／写真が交錯した時間意識の問題を写真論の立場から考察を行い、報告を行った。しばしばSF映画において単線的で因果的な道具立てとして使用される写真が、80年代以降の映像文化の変容の一つの要因であるビデオの媒体、ビデオロジー的展開を通じて、いかに20世紀末の変容した映画（SF映画）のなかの重要なモメントとなっているかを明らかにした（「写真とタイムマシン」、美学会全国大会当番校企画 シンポジウム2「タイムマシンの美学」2013年10月8日（於 京都大学）での報告）

以上（1）から（5）までの議論は現在の映

像文化を新たに統一的に間メディア論的に論じるいくつかの論点を提起しており、学術的にも意義があり、美学芸術学における映像論の新たな方向性を示したものとして評価されている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ①前川修、「カルト・ド・ヴィジット論——ヴァナキュラー写真の可能性 1」『美学芸術学論集』第9号、神戸大学人文学研究科芸術学研究室、査読有 2013年3月、4-21頁
- ②前川修、「楳図 マンガとマンガの恐怖」『美術フォーラム21』24号、醍醐書房、査読無、2011年12月、82-87頁、
- ③前川修、「ブルデュー『写真論』を読む」『Photographers' Gallery Press』No.10., Ricochet、査読無、2011年6月、114-123頁
- ④前川修、「メディア（論）の憑依——ポストメディアウムの状況における写真」『美学芸術学論集』第7号、神戸大学人文学研究科芸術学研究室、査読有、2011年3月、3-14頁
- ⑤前川修、「写真という囿、写真史という囿——杉本博司の写真」『写真空間』4、青弓社、査読、2010年7月、103-117頁
- ⑥前川修、「シャーカフスキーのもうひとつのモダニズム——ヴァナキュラー写真の形態学へ向けて——」、『Photographers' Gallery Press』No.9, Ricochet、査読無、2010年5月、100-109頁

〔学会発表〕（計3件）

①Osamu Maekawa, Horror and the Vernacular
"Manga Worlds" : Subculture, Japan,
Japanology , 2012年6月2日、神戸大学

②Osamu Maekawa, Photography as Media/Art,
文化庁世界メディア芸術コンベンション
「「メディア芸術」の地域性と普遍性—“クール
ジャパン”を越えて」、2011年2月12日東
京ミッドタウンホール

〔図書〕(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前川 修 (MAEKAWA OSAMU)

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：20300254

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：